

図書名	受験番号	氏名
デザイナーの仕事 ーデザインガイドブック		

「モノ」をデザインするために重要な事とは

「デザイン」を考える上で大切な事とは何だろうか。この本には様々なデザイナーが紹介されていた。一見皆、様々な分野やの考えを語っていたが、その中には多くのデザイナーが共通する「デザイン」において重要な事柄が数多くあった。

一つ目は「人のためにデザインをする」ことだ。大切なのは誰でも使用でき、理解できる普遍的デザインを作ることだ。例えば、日常生活に有り触れている様々な椅子は普遍的なデザインである。仕事場だったらオフィスチェア、屋外だったらベンチなど椅子は場所によって形は変わるが、当たり前だけどとても重要な存在。誰しもの使える普遍的なデザインである。二つ目は「モノの使い手の事を想う」ことだ。プロダクトデザイナーの山田耕族は「自分が作り出すモノそのものが、立派に見える必要はない。モノを使う人の気持ち、精神が綺麗になるようなものでありたい。」と語られていた。デザインするためにはモノの使い手の事を第一に考えて作らなければいけない。どんなに凝ったモノ、美しいものを作ったとしても、それに実用性やお手頃な価格でなければ意味がない。多くの人々に愛されるデザインはあまり着飾らない、必要性のある洗礼されたデザインを作ることである。そのためには使い手や作り手（職人や工場）の意見を聞くなど、コミュニケーションをとることがとても需要である。自分の想像力だけではモノは作れないのである。

「デザイン」する事はとても奥深く大変な作業である。私は今まで自分の好きなもの、得意なものばかりをしていた。もちろん楽しんでデザインすることはとても大切なことだが、それだけでは本当の「デザイン」をすることにはならない事を知った。絵がどれだけうまく描けても、そこに意図しているものや伝えたいことがなければデザインにはならない。様々な人に納得してもらえそうなモノ作りは、自分の感覚だけではなく、多くの人とコミュニケーションをとり、多くのモノや素材に触れて、様々な知識や経験を増やさなければいけない。これらを踏まえうえて、これからモノをデザインする際にはこれらのことに気を付けて「デザイン」すべきである。